

2012年10月14-18日 中国・無錫
アジアオリエンテーリング選手権



1980年代に北欧のオリエンテーリング大会に出かけた日本のオリエンティアは数々の異文化体験を味わった。仕切りのない簡易トイレなどまだしも、みぞの上に丸太が一本高さ80cmに渡してあるだけのトイレ、ゴミ処理用の巨大コンテナの縁に腰掛けるトイレ、草原の中に作られた開放感あふれるシャワー!そんな異文化体験に驚きながらも、遠征の楽しみを味わったものだ。

遠征に出かける若者たちも増えると同時に、オリエンテーリングも会場に集まる観客を意識し始めたこともあって、ヨーロッパの大会に出場しても想定外のことはほとんどおこらなくなった。予定調和的な旅行は楽かもしれないが、旅の魅力という点ではやや劣る。そう思うチャレンジングなオリエンティアにお勧めしたいのが、10月に開催される中国でのアジア選手権だ。

中国では10年以上も前にアジア環太平洋選手権が行われた。その時は、地図も今一つ、コントロールのオフィシャルが地元選手を呼んでいたという噂も聞かれた大会だが、この10年間で中国もアジアのオリエンテーリング大国の仲間入りをした。大会自体も、2008年の韓国大会以来、IOFの正式な地域選手権となった。一昨年には、現地の視察団が日本のアジア選手権の事後視察にもやってきた。これで安心と思いきや、一回発表されていた日程はあっさり1週間変更になっていた。しかも、本来1年前に入手できるはずのブリテンは今年の2月になってようやく発行される始末。これだけでもスリルとサスペンスに満ちた大会が期待できる。

開催地は無錫(ウーシー)。尾形大作が歌う演歌『無錫旅情』で有名になった。これだけでもなんだか日本と縁が深そうで、趣を感じられるのではないかな。

それにしても「君と別れて」海外ならいざしらず、なぜ中国のしかも無錫?その謎もいけば分かるかもしれない。日本語読みは「むしゃく」だが、外国人と話すときは「ウーシー」。中国人と話す時は多分後者でも通じないだろう。地名は「無錫」と筆談するのがベストだ。中国語ができないなら、漢字の筆談で意志を通じさせるという話のタネになる体験を味わうこともできる。

無錫は上海から約130km、上海～北京の幹線鉄道上にある大きな都市である。

日本からのパッケージツアーでも「上海・江南の旅」みたいな名前のついたツアーがよくある。アジア選手権のブリテンには「中国十大観光都市のひとつ」と書いてある。中国に留学経験もある大阪オリエンテーリングの阪本氏は「個人的にはそれは言いすぎだが、上位20位になら入る」と、その観光地性に太鼓判を押す。亜熱帯に位置して、気候的にも温暖、10月は平均気温が15度前後ともっともオリエンテーリングに適したシーズンである。文化的にも有名で、その歴史は3000千年前の商王朝に遡る。4000年の歴史全部とは言わないまでも、中国の歴史の3/4が堪能できるだろう。

無錫周辺の観光地として有名なのが、リンシャン(LINGSHAN)仏教名所地区と、タイフ(太湖)である。前者は25kmの郊外にあり、仏教の精神的芸術を讃えるために奉獻され、内外に知られた無錫のシンボルでもある。一方、太湖は無錫に接した風光明媚な湖であり、様々な名所がある。ブリテンに掲載された写真も中国らしい美しいものが多い。

大会日程は以下のとおりである。ほとんどが平日に開催されるのが難点だが、とつても遅い夏休みと思えば、飛行機も取りやすくていいかもしれない。

日程:2012年10月

14日(日) 受付・モデルイベント(無錫)

15日(月) スプリント・開会式(無錫)

16日(火) ミドル(Yixing・宜興/宜)